



大方あかつき館報

第21号
2014年7月発行

あかつき

私は私の仕事を これからも

企画展を終えて

児童文学作家・横山充男

三月から三ヶ月にわたり、上林暁文学館で「光ちよるぜよ！ほくら」横山充男・児童文学の世界」展を催していただいた。

児童文学は、社会的にはいまだに一般小説よりも低いものとして扱われている。しかも「女・子ども」が読むものという二重の差別にさらされてきた歴史もある。師である故川村たかしが、児童文学作品が直木賞の選考対象からはずされていることが差別の証拠である、と常々言っていた。しかし世の中のほんとうの姿が見えるのは、差別している側よりも、差別されている側からである。

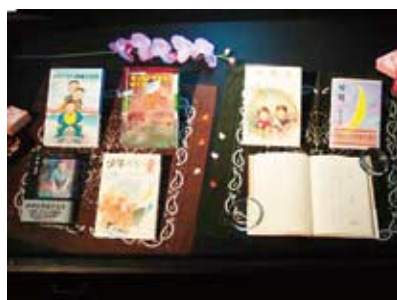
「女のくせに」「こどものくせに」と差別されている側からこそ、この世界の姿が真に見える。児童文学はそうしたこどもの感性を通して世界を描くものであり、それゆえに普遍性をもっている。そのことがだいぶ世間で理解され始めてはいる。

わたしの児童文学作品の大半は、故郷の幡多の風土を背景に描かれている。大都会中心の価値観とはちがうところに、人間の生きる真実のようなものを描けるような気がしているからだ。

そうしたジャンルに目を向けていただき、三ヶ月にわたり特別企画展を開いていただき。予想以上に多くの来館者があったと聞き、とりあえずは胸をなでおろしている。とにかく感謝の一語である。

次の企画展は、中脇初枝氏の仕事を紹介するものと聞いている。中脇氏は「きみはいい子」のヒットで小説家のイメージが一般的かもしれない。け

れども、彼女の著書には絵本や昔話が多い。つまり連続して児童文学に関わった作家の企画展ということになる。そうした意味でもうれしいことだ。全国各地にさまざまな文学館がある。経済的にも運営的にもたいへんだと聞く。ほとんど来館者のないところもあるらしい。



そうしたなかで、上林暁文学館が、こうした企画展を催すことで来館者数を飛躍的に伸ばしていることは驚嘆に値する。館長や職員の方々はもちろんだが、運営に関わっている多くの人々に支えられているのを見た。単に運営するだけでなく、新たな企画を次々に実施していくのは、並大抵の努力や苦勞ではないだろう。

脱帽しつつ、わたしはわたしの仕事をこれからもし続けるしかない。それが文学館を支える人々への感謝のしるしであり、連帯の形であると考えからだ。

それにしても、かつおのたたきで一杯やると、どうしてあんなに簡単に幸せになれるのだろう。

ふるさととは忘し難しである。

第15回企画展「光つちよるぜよ！ぼくら」横山充男・児童文学の世界」でお世話になった児童文学作家の横山充男さんから、こんな一文をお寄せいただきました。児童文学への熱いおもいが伝わってきます。また、『わたしはわたしの仕事をこれからもし続けるしかない。』の一文に、文学にかける強い決意と、上林暁の「七度生まれかわるとも、文芸をやりたい」の言葉にも通ずる作家魂をみます。

期間中800名に近い方々に、ご観覧いただきました。田舎の小さな文学館にとっては、驚きの数字です。

後日、当館にいただいた手紙には、こう記されてありました。

——まだまだ道半ばの未熟な作家ですが、ふるさとや風土に根差した作品を書き続けたいと考えております。都会的で繊細なこともたちを描くのが昨今の児童文学ですが、人間の根っこは自然と風土によって育まれるものですし、またそうした大きな自然のスピリッツに畏敬することも書いていきたいです。(中略)

生きていくこと、生きてきたことに、素直に祝杯をあげられる年齢になってきました。

いっそう酒と、ふるさとの食べ物がおいしくなりました。年をとるといのは、けっこういいものですね。——

文学館の企画展

■第15回企画展

「光つちよるぜよ！ぼくら」

〜横山充男・児童文学の世界〜

同時開催*「挿絵原画展」

コマツシヤ*よこやまようへい

期間 3/1〜6/1

幡多出身の児童文学作家・横山充男。四万十川や中村を舞台に、少年たちの成長物語を多く書いています。その生原稿や書籍を展示します。

同時に、彼の単行本「ラスト・スパート」「夏っ飛び！」「ねこまんさ」の挿絵原画20点も展示。



■特別企画展

「わたしをみつめて」

〜中脇初枝・文学の軌跡〜

期間 6/7〜8/31 (開催中)

十七歳で、第二回「坊っちゃん文学賞」大賞を受賞。以来、作家として活動を続ける幡多出身の女流作家の文学の軌跡を辿ります。

本屋大賞や山本周五郎賞にもノミネートされた「きみはいい子」。続く「わたしをみつめて」で、現在、人気急上昇中の作家です。



同時開催*

「ちゃあちゃんのむかしばなし挿絵展」

町内佐賀出身のイラストレーター・奈路道程さんの「むかしばなし挿絵展」も開催します。

■第16回企画展

「過ぎゆきの歌」

〜愛に生きた郷土の青年歌人〜

期間 I期 9/6〜9/30

II期 11/1〜12/27

『過ぎゆきはなべて寂しと雨あとの下駄に貼りつく花びらを剥ぐ』

上田の口出身の歌人・川村八郎の歌と生きざまに心寄せる上林の優しいまなざしが書かせた作品。その中で紹介された八郎の短歌や町内歌人たちの交流の品々も展示します。

同時に、上林暁顕彰会の会長であり、八郎の無二の親友、歌の仲間でもあった故植田馨さんの追悼展も開催。

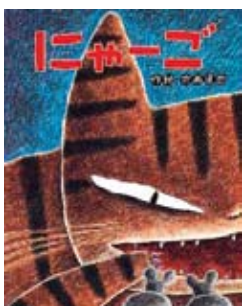
特別展示

「宮西達也・絵本展」

期間 10 / 1 ~ 10 / 31

小2の国語教科書にものっている「にゃーご」や「ティラノサウルス」シリーズの絵本作家・宮西達也さん。この秋、佐賀小とあかつき館での講演が決定しました。

その期間に合わせて彼の絵本展を開催予定。キャラクターのぬいぐるみもやって来ます。



第17回企画展

「タカクラテル〜心のふるさとを訪ねて〜」

期間 へ2015へ 1 / 5 ~ 3 / 22

町内浮鞭出身のタカクラテルにスポットを当て、彼の作品「ハコネ用水」「大原幽学」や信州の自由大学など、活動の軌跡を紹介します。

訃報

永きにわたり上林暁顕彰会の会長を務めてこられました植田馨先生が、去る四月十八日ご病気にてご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成26年度・主な催しもの

上林暁文学館

◇第13回上林暁忌俳句大会

日時 8月24日(日) 9時半~16時

会場 黒潮町保健福祉センター

講師 松林朝蒼先生(「夏爐」主宰)

◇上林暁文学講座

(あかつき館2F会議室/14時~16時)

* 第一回 8月中旬 中脇初枝さん

「中脇初枝・文学の軌跡」(対談)

* 第二回 2月初旬 未定

◇上林暁の作品を読む会

(あかつき館2F会議室/14時~16時)

* 第五回 6 / 28 (土) 「春の坂」

* 第六回 9 / 27 (土) 「未定」

* 第七回 11 / 29 (土) 「未定」

* 第八回 2 / 28 (土) 「未定」

◇第25回あかつき賞表彰式

日時 3月7日(土) 14時半~

会場 あかつき館レクチャーホール

黒潮町立図書館

□夏休み映画上映会

日時 8 / 15 (金)・16 (土)・17 (日)

会場 大方あかつき館レクチャーホール

佐賀総合センター2F大ホール

(8 / 1のみ開催)

□秋の名画座・あかつき

日時 11 / 8 (土) (午前・午後の二回)

会場 大方あかつき館レクチャーホール

□「キャンドルとフォルクローレのタペ」

日時 11 / 15 (土) 午後6時~9時

会場 大方あかつき館

□感想画(似顔絵・イメージ)コンクール

募集 12 / 8 ~ 1 / 25

展示 2 / 14 ~ 3 / 2 * 3 / 4 ~ 11

会場 大方あかつき館/佐賀総合センター

その他

○「戦場からの手紙・特攻」パネル展

期間 7 / 19 (土) ~ 9 / 7 (日)

会場 大方あかつき館1Fギャラリ

○映画会「アナと雪の女王」

日時 8 / 9 (土)・10 (日) (4回上映)

午前10時、午後2時

会場 大方あかつき館レクチャーホール

主催 幡多の子どもたちに

「アナと雪の女王」を見せる会

○絵本作家・宮西達也さんのお話し会

日時 10 / 24 (金) 午後2時(佐賀小)

10 / 25 (土) 午前10時(あかつき館)

会場 佐賀小体育館

大方あかつき館レクチャーホール



あかつき館*催し点描

「図書館×光の切り絵=夢じかん」

3月15日・16日、町内2会場で、光の切り絵作家・酒井敦美さんの作品を中心に企画展を開催。大方あかつき館では、「一画二驚」と「野外幻灯」を。佐賀総合センターでは、書家・北古味可葉さんとのコラボレーションによる「カツオとクジラの大相撲大会」を実施。町内外から1300人を超える方々が来られ、光あふれる夢時間を楽しみました。



第2回文学講座

『ファンタジーランド幡多』

講師 横山充男さん (児童文学作家)

3月9日、文学館企画展「横山充男・児童文学の世界」の開催に合わせ、滋賀から横山充男さんをお招きし、2013年度「第2回文学講座」を開きました。ファンタジーとは何か・土佐の中でも不思議な場所“幡多”など あっという間の90分間、充実した時間でした。40名をこえる参加者が、横山ワールドにたっぷりとお浸りすることができました。



「第24回 あかつき賞」 受賞者決定!

今回で24回目を迎えた「あかつき賞」。黒潮町内6名の小、中学生が選ばれ、3月8日当館レクチャーホールで、表彰式が行われました。

受賞者並びに作品名は、次のとおりです。

- 小1・秋田楓 (入野小) 「大すきだよひばあちゃん」
- 小2・市川宝 (南郷小) 「おいしいいちごジャム」
- 小3・松下柊斗 (入野小) 「弟はかわいい」
- 小4・山中涼乃心 (入野小) 「かわいいうさぎ」
- 小5・矢野千寿 (田ノ口小) 「大好きになった陸上」
- 中1・小橋ななみ (大方中) 「悔しさからの目標」



館長奮闘記

～ブログ『クジラのあくび』より～

おんちゃん、まだあ!

2014.04.02

「おんちゃん、まだあ!」近所の小学生Sくんが、DVDを片手に図書館入口で叫ぶ。「10時から。長い針があと半分。」答えても、すぐまた、「おんちゃん、まだあ。」宿題のない春休み、そろそろ小学生たちも暇を持って余しているのかな。もうすぐ怒涛の新学期が始まる。まあ、しばらくのんびりを楽しんで下さい。

開館5分前、受付の祥さんに許可してもらい入館。さっそくお目当てのDVDを借り、ご機嫌さんで帰っていった。

エルグレコで、珈琲を

2014.06.08

瀬戸内文学館協議会の総会で、岡山「吉備路文学館」まで出張。会議は、金曜日だけ。土曜の休日を利用して、倉敷美観地区を探索。何回目かの大原美術館内も、今回はゆったりと巡ることができた。

観覧後、立ち寄った「エルグレコ」。チーズケーキと珈琲が美味しい。レトロな空間の中でゆったりと過ごす時間も、また格別な味がする。